

2013年度 第2回 インデューロ部会 議事録 ダイジェスト

(青字表記は、モトクロス委員会後に変更または決定された事項)

開催日：2013年11月8日(金) 午前10時30分～午後5時00分

開催場所：MFJ会議室(東京都中央区築地3-11-6 築地スクエアビル10F)

1. 2014年度主要競技会日程調整

(1) JEC 全日本選手権シリーズ		【6ラウンド合算ポイント】	
5月18日	第1戦 中国大会	Rd.①	テージャスランチ
7月27日	第2戦 近畿大会	Rd.②	プラザ阪下 注①
9月20日～9月21日	第3戦 HIDAKA2DAYS 大会	Rd.③④	北海道日高町
11月22日～11月23日	第4戦 SUGO2DAYS 大会	Rd.⑤⑥	スポーツランド SUGO
11月15日～11月16日 WERIDE 三宅島(特別競技会)			
11月3日～11月8日 ISDE アルゼンチン			

注① 全日本開催にあたり、エリア選手権シリーズの開催実績と部会の査定表を基に審査することが平成25年度第1回エンデューロ部会で決定しており、本年10月にプラザ阪下で西日本エリア選手権の開催と査定報告が中嶋中部エンデューロ部会長より説明され、2014年度全日本開催が承認された。

決定事項

- 2014年度のシーズン開始前までに現状の査定表の書式をリニューアルする(藤原部会長、中嶋部会員担当)
- 査定を行う人数を複数とし、平均値で判断する
- 査定員の資格は特に定めませんが、MFJED部会員/当該地区ED部会員を中心とした人選が望ましい

※2014北海道、東日本、西日本エリアシリーズの日程とポイントスケールについては、各地区で調整し、MFJへの報告ならびにJECプロモーションのサイトで報告する。

2. 各地区エンデューロ部会活動報告

北海道エンデューロ部会

12月7日に部会を実施する予定であり、カレンダー等はその際に調整する予定。

北海道EDエリア戦の構造改革案が提出され、説明された。承認で開催されているクラスにおいてエンジョイライセンスが必要とされることが原因で参加者が集まらないとの仮説に基づき、2015年より、全道ED選手権シリーズとして、IB、N、承認Bクラスを設定し、それ以外のFUNクラスを承認格式としないこととし、別時間に実施することについて検討されていることが報告された。

東北エンデューロ部会

11月5日に東北ED部会を開催した。

東北エリア選手権シリーズは、全5戦7ラウンドを計画しており、有効ポイントは適用せずシリーズ全戦の合計で行う。“MFJ”や“選手権”や“JEC”という言葉に高いハードルを感じているエントラントが多い印象であり、ネーミングを変えて参加者の持つイメージを改善して参加者を多く募ることも重要であるとの認識を持っている。競技会の開催期間とライセンスの有効期間の整合性を併せることが要望され、2015年以降をメドに事務局で検討することとされた。

車中泊やレース中のガソリンの取り扱いについて、京都での事故を教訓に注意喚起を徹底することが要望された。

関東エンデューロ部会

WERIDE 三宅島が台風の影響で11月30日に変更となった。暫定であるが、来年度の開催日も報告された。

人口の多い関東でのエリア選手権の要望が提出されたが、現状では困難である。

中部エンデューロ部会

JEC ライツをオンタイム競技でエリア選手権として実施することも検討している(草レース趣向の競技会は残すべきとの意見もあるが...)。近畿大会の開催を中部ED部会でも支援をするが、中部地区内でのエリア選手権の開催も今後検討していきたい。

中国エンデューロ部会

初開催であったが、今年テージャスランチで開催された開幕戦は、成功だったと言っていいと思う。2014年の全日本中国大会の開催と、西日本エリア選手権の調整については、早急に中国 ED 部会を招集する予定。各主催者の負担は大きく、競技役員がボランティアで動くことにも限界が感じられているが、他の部会員の協力も仰ぎ負担を分担する方向で調整したい。多少時間がかかると思うが、西日本地区でもオンタイム制を普及させたいと考えている。今年、中国地区のシリーズランキング表彰式に ED 西日本エリア選手権の上位選手を招待することとなり、選手の励みにもつながるように願っている。

九州エンデューロ部会

MFJ 格式で、“九州 ED 選手権シリーズ”の立ち上げを検討している。また、承認で開催されているイベントに MFJ 格式の競技会に登録してもらうよう主催者に呼びかけている。宇和島で開催されている ED イベントをエリア戦で開催できないか？検討して頂いている。(会場は MX 場を想定)

継続検討

近畿地区にもエンデューロ部会の設立が要望された。但し、人選等に関して JEC プロモーションと中嶋部会員に本年度西日本エリア近畿大会の開催にあたり軸となり貢献した人物を中心に選定して頂き、近畿 ED 部会員リスト(案)を基に、MFJ 本部から MFJ 近畿へ設立の検討を依頼するよう提案された。四国地区は、当面、中国部会との共同で活動していくことが確認された。

3. 開催状況報告とシリーズランキングの承認

(1) 全日本

IB → IA(自動昇格) 1位～3位 西森裕一(038039)、栗田武(152835)、滑川勝之(230303)
N → IB(自動昇格) 1位～8位 大曾根正義(125667)、谷先慎一(204378)、小野瀬泰成(075348)、
道山和之(238846)、小川尊史(043549)、福岡直樹(238355)、
小菅泰輝(049852)、関謙一(239145)

(2) エリア選手権の昇格

① 2013 北海道エリア選手権シリーズ

IB → IA(申請昇格) チャンピオン 村田竜志(065587)
N → IB(自動昇格) 1位～5位 毛利真悟(219174)、高見良隆(600577)、竹村元伸(153534)、
木内彰(020172)、柴田和広(023915)

② 2013 西日本エリア選手権シリーズ

IB → IA(申請昇格) チャンピオン 井上雄介(238327)
N → IB(自動昇格) 1位～5位 熊本悠太(033674)、尾仲敦志(227434)、関謙一(239145)、
熊本順治(033675)、小川尊史(043549)、柳原博一(227105)
※5位6位の選手が同点のため6名昇格で承認された。

③ 2013 東日本エリア選手権シリーズ

IB → IA(申請昇格) チャンピオン 小坂竜也(230210)
N → IB(自動昇格) 1位～5位 大曾根正義(125667)、千坂公洋(339440)、小野瀬泰成(075348)、
福岡直樹(238355)、山内斉(205923)

5. 国内競技規則改訂(案)について

(1) 公認競技会の昇格ポイント対象期間の改訂について

ライセンスの有効期間との整合性も併せて改訂を検討すべきと認識しているが、他種目との兼ね合いも考慮しなければならない為、2015年に向けて継続検討とすることが本部事務局より報告された。

(2) 観客保険料について

事務局より以下の通り説明された。

公認・承認競技会の申請料に含まれている“観客賠償保険”の掛金が、近年、観客や関係者(競技役員等)の事故発生件数が増え、大幅に値上がっている。しかしながら主催者の負担増加を避ける為、競技会申請料の値上げはせずに MFJ 事務局で掛金の不足分を支払ってきたが、掛金の増額が続き事務局での負担に限界が生じた為、2005年より競技会申請料を値上げせざるを得ない状況となっており、エンデューロ部会で了承された。

(3) エンデューロ国内ライセンスの取得条件改訂

決定事項 第2章ライセンス 8 会員ライセンスの取得要件

8-12-4 エンデューロ国内ライセンス

16歳以上の者で下記要件を満たしている者。

原付以上の運転免許証(小型特殊免許を除く)を取得していること。運転免許証を受けていない者はMFJの公認する当該ライセンス講習会を受講し修了証(受講日以降6ヶ月間有効)を取得していること。

※但し、競技会のコースに公道が含まれる場合は、競技に参加する車両で公道走行可能な運転免許証を所持していなければならない。

(4) ワーキングタイムについて

決定事項 付則23 エンデューロ競技規則 26 タイムカードとルートカード

26-9 プレフィニッシュ

ワーキングエリアの手前には最終周のみ、プレフィニッシュ(事前最終チェック)が設けられる。ライダーはこのプレフィニッシュから最終タイムチェックに行くまで、15分間のワーキングタイムが与えられる。

但し、1日開催及び、ファイナルクロスが無い2日目については、15分間のワーキングタイムを必要としない為、各大会特別規則(SR)で、ワーキングタイムの有無を記載し、発表する。

(5) 全日本ED選手権におけるウェアラブルカメラの使用について

登録料等は無料とするが、選手受付時に主催者に対して誓約書に署名することを条件とする。

(6) 全日本ED選手権2DAYS大会における1DAYのみの出場許可について

2日間で構成される競技会へ1日のみ出場することが認められたことが報告された。但し、やむを得ない事情の場合の救済措置を前提とする。

6. 普及対策について

(1) 全日本選手権開催状況

最終戦を残しているものの、第3戦までの終了時点でIA(139%)とIB(110%)は前年比増加となったが、ナショナルクラス(93%)は減少となっている。併催承認クラスの減少も顕著であり、選手権を追いかけるニーズのみ特化している印象。JECプロモーションより、第3戦終了時点でのエントリー統計資料が提出された。

(2) ライセンス登録者数

10月末日の前年同日比較は、82%の減少。国内ライセンスの新規登録者数が伸び悩み。

都道府県別の資料より、東日本地区に比べ西日本地区の登録者数が少ない。北海道と中部地区は増加しているが、他地区は著しく減少している。

(3) 増加対策に関する意見交換

- ✓ ライセンスに関与しないエンデューロ競技会は参加者増加傾向と聞く(EJライセンス廃止が賢明か?)
- ✓ レース内容が重要であり、ライセンスの有無が重要な訳ではない(主催者保護の為にライセンスは必要不可欠)
- ✓ エンジョイライセンスの1EVENT化は必要。年間と1大会の2種類があるとよい(※MFJ事務局でも検討中)
- ✓ シーズンインのタイミングで魅力ある競技会(例:SUGO2DAYS等)を設定することでライセンス増加に繋がる
- ✓ シーズン前に、全日本トップライダーによるプレイベントが有効では?(例:ダブルレーン等)
- ✓ 誰でもわかりやすく、入りやすい大会のネーミングは、重要。
- ✓ JECのサイトでエリア選手権の情報も統一化して配信していく。DMやSNSを利用した告知強化が必要。

(4) 前回部会の継続審議事項

① JECの競技規則がわかりづらい点

本部事務局において製作された普及冊子の草案が提出された。

文字が多いと読まない、全く知らない人に伝えるにはイラスト使用が効果的、等の意見が草案に対して出され、事務局で製作した草案を基に、編集に携わる春木部会員へ来シーズン開幕前までに編集協力して頂くことが決定した。

また、動画作成と公開についてはヒト・モノ・カネの都合もある為、具体的なプランは策定できないが、最終戦SUGO2DAYSで素材となりうる動画を藤原部会長に撮影手配をしてもらうよう協力を要請。

② 参加ライダーに充実感を感じてもらう為に・・・

中部ED部会の主導で近畿地区での全日本開催が進められており、全国展開を模索している。2014年の全日本近畿大会は、全日本対象クラスと併催承認クラスのみ実施し、約100台程度参加の規模と推測される。本州の人口が多い場所での開催であり、特に重要度の高い大会であると言える。

また、当該地区の部会長が中心となり、全日本の査察表を策定し、コースとタイムのチェックを行うことでライダーにとってより良い環境を提供したい。

③ 計測業務の複雑化解消策

複雑なオンタイム規則の計測業務への対策について、オンタイム規則が複雑であるという概念は間違いであり、これまでのリザルト手違いの原因としては、競技方式の特殊性と機械による問題だったという理解が正しいことが指摘された。

継続審議

現状通り、各主催者の都合にあった方式を採用することとし、シリーズ統一化は義務付けない。

但し、シリーズ統一化を前提とした調査は継続し、JECで見積もりを依頼した業者を中心に、2014年の4大会を想定し、シリーズ統一化を前提にした場合の金額を、改めてJECプロモーションに確認してもらおう。

④ 主催者の負担軽減策

JECプロモーションの役割について、現状通り、JECライツやエリア選手権のフォローを中心に展開していく予定であるが、活動資金が乏しい。活動費捻出を目的にJECから以下の提案が出され、エンデューロ部会です承された。

- ✓ 全日本選手権で観戦ガイドツアーを企画し、参加費を設定したい
- ✓ 全日本に関連するグッズを製作、販売し、製作費を除く売上をJECの収入に計上させてほしい
- ✓ JECのサイトを充実化させる為に、各地区や全日本の情報を積極的に提供してほしい。

また、中嶋部会員より、オープンエリア主催で10月に開催されたオンタイムエンデューロの初級編イベントについて報告された